

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091800072		
法人名	タイワ株式会社		
事業所名	グループホーム ハピネス岩出		
所在地	和歌山県岩出市森259-1		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3091800072-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成27年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様やご家族様のご要望やご意見を常に受け止め、どのような場合でも従来の枠組みにとらわれず迅速かつ柔軟な対応を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な居心地の良さが、温かみのある雰囲気の中で、くつろいだ生活ができるよう利用者本位に支援している。外出支援に力を入れて、日常的に外へ出る機会を多く設け、行きたいところへ気軽に出かけられるよう工夫しながら前向きに取り組んでいる。防災にも関心が高く、防災管理の専門的な知識を持つ職員を中心に、災害時に利用者が安全に避難できるよう備えて、利用者と一緒に訓練を実施している。また、地区の防災訓練にも参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関ホールなど目に付きやすいところに掲示し、常に意識付けをこころがけている。毎月の職員会議において、理念が具体的にケアに反映されているか、職員全体で話し合い、実践に取り組んでいる。	利用者一人ひとりと向き合い「笑顔で」「一緒に楽しく」を心掛けて、自宅の暮らしの延長のような自由な暮らしができるよう、職員間で話し合い、共有できている。	地域での暮らしを意識でき、事業所で行っているサービスの意義が、より分かりやすい理念とすることへの検討にも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関先の掃除や花壇の手入れ時に、登下校の小学生を見守ったり、買い物や散歩途中に近隣の方々と挨拶を交わすなど、地域との関わりを大切にしている。地区の防災訓練に職員が参加する。	農家の人から野菜の差し入れがある等、近隣住民とは顔の見える関係が築かれている。ホームは小学生の通学路に面していて、下校時には利用者も地域の見守り隊としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々にお越し頂き、入居者も共にレクリエーションに参加される。定期的に交流を持ち、認知症への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催。入居者、ご家族、地区長、市・包括支援センター職員に参加頂き状況や活動の報告をする。出された質問や意見をサービスの質の向上に活かすよう努めている。	報告中心の内容で、活動内容や利用者の様子をスライドを使って分かりやすく紹介している。	テーマや内容、進行の仕方を工夫して話し合い、意見を集めて運営に活かしていけることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き状況や活動を報告し相談を行う。指導や助言を頂き、改善に努めている。	入居者と共に地域包括支援センターに出向くこともあり、認定調査や入居の情報等、様々な内容について相談し話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習に参加し報告会を行い、身体拘束について学び、理解し防止に努めている。建物の構造上、職員が1階に不在の時は入居者の安全を優先してやむを得ず施錠をしているが、外出の機会を多く設け、閉塞感のない自由な暮らしを心がけている。	リビングが二階部分にあり、一階の玄関周辺に目が行き届きにくい建物の構造なので施錠する時間帯もあるが、鍵に頼らず声掛けや外出支援で利用者が圧迫感を感じる事が無いよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての講習に参加し学んでいる。講習ののち、報告会において職員が日々のケアについて話し合い、防止に努めている。		

【事業所名】グループホーム ハピネス岩出

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、後見人制度を利用されていた入居者がおられ、制度について勉強の機会を設けていた。引き続き、理解を深めるよう取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に理解頂けるように十分な説明に努め、疑問や不安点を解消した後に、書面にて同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払いを、直接お越しいただけるようお願いしている。その際に行事の写真を見て頂いたり、日常の様子を報告。また、家族様の要望や意見を伺い、運営に反映させている。	家族の訪問時には、家族も打ち解けて話せるよう関わり、何でも話してもらえる関係を築いている。看とりについてアンケートを実施して家族の意向を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や月末に提出する報告書に、職員がそれぞれの意見や提案を出し合う。提案のあった事項は検討のうえ実施されている。	職員からの提案は月1回の職員会議で話し合い、備品等の要望があれば検討し購入している。職員の意見を取り入れて、分りやすく改正した防災マニュアルを壁に掲示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や取り組み、実績を十分に把握し、それをもとに向上心を持って働けるよう配慮している。職員から提案のあった事項は可能な限り実施し、設備の充実を図り環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の実践力を高めるため研修会への参加を促し、報告会にて発表。職員全体が正確な知識と技術を身につけ、ケアに活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、情報交換や施設訪問の機会を得る。施設の行事にも招待頂き、入居者とともに訪問させて頂く機会があり、それらの活動を通じてサービスの質の向上を図っている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を取り除くよう何事にも傾聴・共感し寄り添うように努力している。本人の想いを理解し安心して頂く事によって良好な関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、悩みや不安や希望等をお聞きして話し合いながら支援の方向を決め、ご家族の協力を得てケアを続けていく中で信頼関係を築いていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の要望を伺いながら、必要な支援を見極め、医療機関とも連携して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除・洗濯等の家事や、家庭菜園での野菜作りの作業を共に行っている。また外出の折には一緒に外食をするなど家族同様に日常生活を送ることで喜怒哀楽を共にするよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員間で情報を共有し、ご家族への報告・相談を密に行い要望を伺っている。ご家族との外出や受診時に同行して頂く等、協力して支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ、散歩やドライブの際に立ち寄ることがある。親族の面会やご家族の協力による外出や外泊など、関係の継続を支援している。	市の敬老会等、地域の行事に出かけ、知人、友人と会う機会を作っている。訪問しやすい雰囲気、家族と一緒に近隣の友人がホームを訪れることもある。ドライブの際に馴染みの場所に立ち寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出などを通じて、職員が見守りながら仲良く助け合える関係が築いていけるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、入居者の近況を知らせて下さるご家族がおられる。経過をお聞きし、これまでの関係性を大切に相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いや希望、悩みには絶えず耳を傾け、ご家族にもお話を聞いて参考にし、意向の把握に努めている。	利用者一人ひとりに担当の職員を決め意向を把握できるよう関わっている。利用者と話をするときは、向き合って、話をゆっくり聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から過去の暮らしや生活環境についてお話を聞き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活の流れや心身の状態を把握し、その人のその時々に適した取り組みを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者それぞれに担当の職員を決め、ご本人がよりよく暮らす為の課題やケアについての状況を話し合い、ご家族や医療機関とも相談しながら現状に即した介護計画を作成している。	家族や本人の希望も取り入れて介護計画を作成し、半年に1回計画を見直している。ケアの内容については毎月職員間で検討して話し合っている。	一人ひとりの利用者の、したいこと、できること、得意なことなども取り入れて、職員間で話し合った内容がより反映される具体的な計画となることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や、個々の記録に記入し、共有した情報をもとに改善点を見出し、介護計画の見直しを行い、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身の状態を把握し、ご家族の意向をふまえ、可能な限りご希望に添えるよう柔軟な対応を心がけている。		

【事業所名】グループホーム ハピネス岩出

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	過去の暮らしや生活環境を把握し本人とのコミュニケーションの中から正しく理解し、その人に一番適した取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族が希望する主治医での受診を支援している。診察には職員が付き添うが、ご家族様も同行して下さる場合もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者の希望する医療機関での受診を支援し、通院には家族または職員が付き添っている。受診内容は記録して家族と職員の情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な方には、訪問看護を受けたり健康相談しその人に合った適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、度々病院を訪問し入居者が安心して治療できるように関わっている。また早期退院に向け主治医と相談を密にし、ご家族へ報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を伺い、当所には看護職員がいないこと、設備的に対応できない事項を説明し、重度化したとき終末期をどうするか話し合い希望に添えるよう努めている。	リフト浴の設備が無いので、重度化への対応は困難な面もある。現在、看とりは行っていないが、利用者の状況に応じて、往診可能な医師や訪問看護等の体制が整えば家族の希望も聞きできるだけ対応していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や急変時の対応をスムーズに行えるように職員全員がスタッフ会議や講習などで定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで、年2回、日中・夜間を想定し、避難訓練や消火訓練を行っているが、最近では職員会議の後も行うようにしている。運営推進会議の際に参加下さった地域代表の方に訓練の状況を報告し、災害時の協力をお願いしている。	職員の防災に対する意識が高く、安全に避難できるよう利用者と共に避難訓練を実施し、地域の防災訓練にも職員が参加している。利用者用の防災ヘルメットも人数分準備中である。	災害時、地域のために提供できること、地域の協力が必要なこと等を話し合い、地域との協力体制が整うことを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思や人格を尊重し、プライバシーを守り自尊心に配慮した声かけや対応を心がけている。活動報告での写真掲載などは、ご家族に書面にて了解を得ている。	箸やスプーン、食事中的エプロンの使用にも、本人の気持ちを考え、本人の表情をよく観て、不快な思いをさせることがないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の訴えに耳を傾け思いに向き合い、ご本人のペースに合わせ、不安が和らげるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に安心して過ごして頂けるよう、体調も考慮しながら希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回訪問理容を利用。なじみの理髪店を希望される方には、随時同行している。毛染めを行ったり、必要に応じて衣類の購入に付き添う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの調理や盛り付け、下膳や食器洗いなどを手伝って頂く。機能の低下されている方には、料理本を見て献立の選択をして頂く。季節によっては、家庭菜園で育てた野菜を食べる事もある。	家庭的な雰囲気の中で施設長と職員も利用者と一緒にテーブルにつき食事をしている。2ヶ月に1回は皆で外食に出掛けており、数人で外出した時に外で食事をする事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し把握する。摂取量が少ない場合は嗜好品で補ったり、主治医に報告し栄養補助食を摂取。主食は、米飯・粥・パンをご本人の状態や好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き・義歯洗浄・消毒など、一人ひとりの状態に合わせて、声かけ・見守り・介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

【事業所名】グループホーム ハピネス岩出

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔や状況を記録してパターンを把握。随時声かけ・介助を行う。夜間はポータブルトイレを使用し自立した排泄を支援している。誘導時には、自尊心に配慮した声かけを心がけている。	排泄状況を把握して自立に向けた支援をしている。尿取りパッドを利用して、リハビリパンツから布パンツへとオムツを減らす工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や調理方法、水分摂取など食事面での工夫や適度な運動を取り入れる。便秘が続く場合、下剤を服用し定期的な排便があるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めず、週3回ほど入浴している。時間帯は、入居者のその日の希望に沿って行う。入浴を拒む方には無理強いせず、時間をおいて他の職員が声をかけるなどの対応をしている。	リフト浴の設備は無いが、身体機能が重度化してもシャワーキャリーを使用したシャワー浴ができるなど、幅広く利用者のニーズに合わせた対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、しばらくリビングで過ごされた後に居室に戻られる。室温や明るさ等、ご本人の希望や状態に応じて調節し、快適な環境で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬についての情報は個別の記録簿で常時確認を行う。薬の変更や臨時薬は速やかに連絡し、全職員が把握し対応できるよう努めている。配薬は職員2名で行い確認し間違いを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な事を生かして役割を分担して頂き、やりがいや満足感を感じて頂く支援に努めている。レクリエーションや地域の催しへの参加、ドライブや外食などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、墓参りや嗜好品の買い物、施設周辺の散歩や車ででの外出を行い、積極的に戸外に出る事を支援している。季節ごとの外出行事に、ご家族が同行して下さることがある。	車を多く用意し、月に1回程度は皆で外出している。それ以外にも、天気の良い日には月に数回程度、小人数での外出も行っている。普段の散歩の他、オシャレして買い物に出かけるなど、個別の外出も行われている。	

【事業所名】グループホーム ハピネス岩出

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりし、職員が金銭管理を行っているが、買い物に出かけた際には能力に応じてなるべく支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけて、ご本人がお話される。ご家族には、月に1度健康状態や日常生活の様子を写真を添えて便りをお送りし、近況の報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには手作りの押し花や行事の写真を飾り、窓からは木々や田畑など自然風景が眺められ、季節を感じる事ができる。室温や明るさの調整、換気を行い、心地よく過ごせるよう心がけている。季節の花や野菜を育て楽しんでいる。	グループホームとして作られた建物ではないので、廊下が狭いなどやや不便な面もあるが、かえて自宅の延長のような家庭的な雰囲気となっている。リビングからの景観も良く、2階の廊下からバルコニーに出て、ベンチで外気を楽しむこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓テーブルのイスやソファに腰かけ、テレビを観たり新聞を読んだり、会話やカラオケを楽しんだりと思い思いに過ごされる。気候の良い時期はベランダに出て日光浴を楽しまれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたタンスや椅子を持ち込み、ご家族の写真や観葉植物、工作品を飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	色違いのドアの上のリースは季節によって変えている。居室は作りが皆違うので利用者も間違えにくく、人形や写真、手作りの押し花等が飾っており、落ちついた雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせて、居室の必要な場所に手すりを取り付けたり、夜間は常夜灯を付けて明るさを確保する。また、洗濯や食器洗いができるよう洗剤類の表示や管理、見守りを行っている。		